

やくわえ

No. 90

平成26年2月1日 発行
東京都神道青年会

年頭所感



東京都神道青年会

会長 松岡 由里子

平成二十六年の新春を寿ぎ、御皇室の弥栄と国家の安寧を心より御祈念申し上げると共に会員を始め皆様のお社の御繁栄と御健勝をお祈り致します。

昨年は神宮、また出雲大社におかれましても遷御が無事に執り行われ、数多の日本国民が崇敬の念を抱き国の繁栄を願った事でしょう。これも、全国の各お社の地道なる人々への働きかけが大きな力

となった証と思われまふ。

信仰を持たないと思っている人であれ自然と神社には足を運ぶ姿を見るにつけ、私たちに組み込まれている何かは神社に繋がっていると感じます。その神社に御奉仕する青年神職としての私たちの役割は大変重要なものです。多くの方々の力になっていける己を築きあげるといふ過程の中で、この青年会を大いに活用して頂ければ幸いです。

昨春、この歴史ある都神青の会長にご指名頂き、思いもよらぬ重職に身を砕く日々を過ごして参りました。先輩方からのお教えの通り、この青年会の素晴らしところは二十歳から四十歳までの人間が一堂に会し、共に研鑽を積み、交流を深められることです。その中でも会員同志の懇親は何よりも大切と考えています。対象年齢の幅が広いからこそ通常では叶わぬ貴重な経験ができるのです。年の

上下隔てなく共に語り合い、影響し合える会となるように更に良い環境を築いて参りたいと思っております。

愈々本年、当会は創立六十五周年を迎えることとなります。六十年間は、人間でいえば還暦を過ぎ、いよいよ円熟の時期を迎えた事になります。その間東日本大震災という震災を挟んでの皆の意識が大きく変わり、どんな高度な技術、費用を費やして作り上げたものでも、自然の力には叶わないことを思い知らされました。また、自分たちが作り出したものによって自分たちが苦しめられるという、現実を目の当たりにし、人間の力ではどうにもできないことがあるという事に改めて気付いたのであります。そのような状況の中で神社の役割は、人々の心の拠り所であり、支えとなる存在なのではないでしょうか。

御遷宮を機に「常若」という言葉が一般の皆様のご知るところとなりました。大まかな意としては、「いのちを尊び常に若々しく輝かせ子孫に伝える」です。当会としても六十五周年からその先に繋げて行く為に、伝統を守りながら時

代に呼応して、常に前進する会であるように、常に新しい息吹を取り入れて感覚を研ぎ澄ます事が肝要かと思えます。風通しを良くし会を活性化する事が次の「常若」に繋がるのです。

また昨今、日本を取り巻く対外情勢は芳しくありません。我々は日本国民であることをしっかりと意識し、諸外国との問題も自らの問題と捉える。その心持が求められているのです。本会も円熟の時を迎え、揺るぎない信条の元、人々の心に沿った活動を進めて行きたいと思っております。

周年事業も諸々計画しておりますので、会員の皆様方には是非とも積極的に参加を頂き、その経験を共有して頂きたいと思っております。青年会では非尊敬出来る同志を見つけ、この人の為なら全力投球する！そんな先輩や仲間を見つけ人生の宝を得て頂きたい。

私は至らぬ所ばかりですが、信頼する仲間助けられここまで来ました。まだまだ道半ば。これからも皆さんのお力添えを頂きながら共に都神青という名の船を漕いでいきたいと思っております。何卒宜しくお願い致します。

教養講座

『神宮式年遷宮を終え、
今後の神宮奉賛を考える』



講師の北川相談役

十二月六日、都神社庁大会議室に於いて、『神宮式年遷宮の遷御を終え、今後の神宮啓発を考える』と題した教養講座が、三十七名の参加のもとに開催された。

先般、斎行された遷御の儀にあたり、当会の相談役や現役会員が宮掌補や臨時出仕として御奉仕をしてこられた為、当日の様子や体験してこられたことを、四名講師に講演いただいた。

まず、全員で神殿を拝礼し、引き続き主催者挨拶として、当会の松岡由里子会長が、挨拶を申し述べた。その後講師が紹介され、教養講座が開講された。



講師の八木相談役

まずは講師のうち進行役となる押見氏より、今回の講師となった四名が宮掌補や臨時出仕としてご奉仕をすることとなった経緯と、この教養講座の趣旨などの概略説明があった。

次は早山氏の講義。早山氏は臨時出仕として、川原大祓に於いては唐櫃の奉昇。遷御の儀に於いては外宮正宮内院の庭燎(ていりょう)の所役を奉仕された。

早山氏の所役は、祭場全体について見通せる立場ではないため、間近で見ることのできたごく一部の祭儀の話ではあったが、実際に現場で奉仕してきた者ではないと見知ることができない貴重な体験談を、式次第や祭場補設図などを用いて、非常に分かりやすく解説された。

特に遷御の儀に於いては、普段



講師の押見議長

の整然とした神宮の面持ちとは異なり、祭儀を次々に進めていかなくはない状況に、時には荒々しく緊迫した様子で祭儀が進行していく様など、臨場感のある話があった。

早山氏の話の後は、再び押見氏が壇上に上がる。出御の御治定の話や奉昇した唐櫃の話や、続いて神社本庁遷宮広報本部作成の遷宮のDVDが上映された。

DVDを見終えたあと、さらに外宮先祭、着装装束、古殿地の名称、宇治橋の話などがあり、この遷御の儀に於いて、神嘉殿では陛下が遥拝をされ、神宮では臨時祭主の黒田清子様のご奉仕され、秋篠宮様のご参列されておられるというところでご奉仕が叶ったことへの感謝の念を述べられて、押見氏の講義を終えた。



講師の早山広報部員

引き続きは、八木氏が壇上へ上がる。八木氏は内宮宮掌補としてご奉仕をされた。

まず今回、八木氏が宮掌補としてご奉仕するに至った経緯の説明があった。とても希少な立場でのご奉仕にあたり、記録の為に出来る限りの情報収集に努められたとのことで、ご奉仕中に撮影した画像や図面等をもとに講義が進められた。

一般的に公開をされている遷宮の画像資料とは異なり、着装した装束一つ一つの画像、控室内の様子子の画像といった奉仕者しか見ることのできない舞台裏が話された。さらに、奉仕前の手水の話、祭主が臨時祭主へと交代をされた際の話、祭儀を取り仕切る責任者の存在の話、玉串拝礼の話、中庭で

内院から吹いた大風が特に印象深かった話などが続いた。

そして、この祭儀では御神饌があがらなかったこと、勅使の祭文奏上はあったが大宮司の祝詞奏上はなかったことなどをあげ、遷御の儀というのは、天皇陛下の祭儀であり、神宮や神職はあくまでもそれを現場で執行する立場であるという見解をされた。

そして、正殿御鍵の普段の扱いについて質問をされてきた話をされ八木氏の講演を終えた。

次に、四人目の講師として北川氏の講演となる。今回臨時出仕として、外宮の参列員の松明所役をご奉仕された。



北川氏は神青協の遷宮委員会の第一期委員長を務められ、十年前から遷宮啓発活動に関わってきた経験をもとに、今回の遷宮へ向けての話をされた。

十年前の発足当初は、未だ遷宮の機運は全国的なものではなく、委員会としても手探り状態であったことから、まずは自分たち自身が遷宮について学ぶ必要があると多い時には毎週のように神宮へ通って勉強をし、会議を重ね、研修を行い、試行錯誤して様々な行事を企画されてきた。

企画には「知ろう学ぼうお伊勢さん」親子体験学習の企画、子供向けの啓発パンフレット「神



宮式年遷宮の「ころ」作成などがあつた。任期終了後にもさらに、一般の方の書いた紙絵馬を持参する「神主さんの伊勢街道参宮団」、「フレーム切手の作成」、「知ろう学ぼうお米作り」、「全国の巫女の神宮研修」、「電子書籍の作成」などの事業に関わってこられた経験

を踏まえ、今回の遷宮にご奉仕をされた話を感慨深げに講演された。北川氏の講演の後は、質疑応答となり、いくつかの質問とそれに対する講師のお答えがあり講座を終えた。

講座の後は神殿拝礼、主催者挨拶、筒井昌和都神社庁理事による修了証の授与、挨拶と続き、教



養講座は無事に閉じられた。

神宮奉賛活動は書物で見知ったことのみで語るには伝わりきらないものがある。まずは自身が神宮へお参りをし、神宮の杜を見て、風を感じ、直接肌で御神気に触れねばならない。そして、遷御の儀にご奉仕をすることは、格段に強いご神気に触れることとなる。

今回の教養講座は、奉仕者ならではの視点での遷宮が講義された。そこには、いくつもの驚きや感動が語られていた。そういった、経験者の言葉にはとても重みがある。今講座は多くの考える材料を提



文章・構成 広報部

神道行法錬成会

七月十一日・十二日の二日間、恒例の神道行法錬成会が青梅市の御岳山に於いて、奥野雅司道彦・八木光重・森田義巳・守谷徳之・藏重命弘・栗原健人助彦の指導のもと六十名の参加者数で開催された。初日は午後一時より開講式、始禊祭の後、鉢巻・禪姿で気合を入れ綾広の滝を目指した。鳥船をし和歌を入れ、気持ちの一つにして御水を頂き体内の靈気を振り起こし、神拝行事では心身を鍛え直した。



夜の講話の時間は奥野道彦が日本国憲法についてお話しされ、憲法改正草案についてその草案文章にどの様な意味が込められているのかなど篤い講義であった。

二日目は早朝の御滝行事の後、御嶽神社正式参拝を行い終禊祭、直会に移り参加者相互の親睦を深めた。麻知家を出る頃には錬成会を終え充実し、達成感に満ちた顔つきで参加者全員無事下山した。
(鳥前 永祐)



都内戦災震災殉難者慰霊祭並びに靖國神社参拝

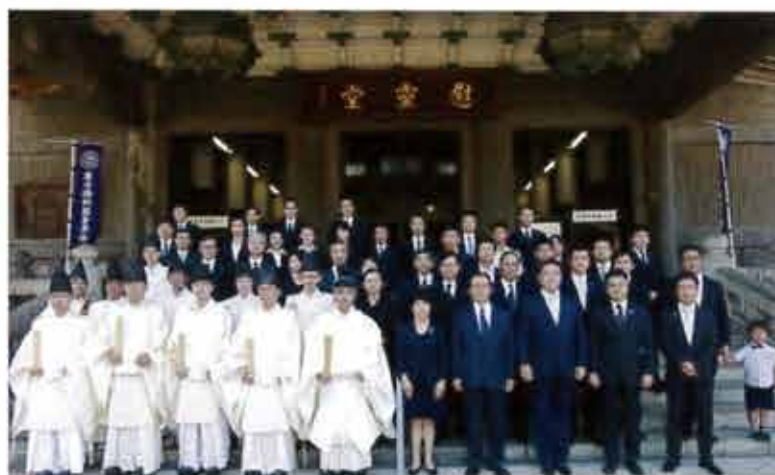
八月十五日、都神青主催・神政連東京都本部協力による都内戦災震災殉難者慰霊祭並びに靖國神社参拝が執り行われた。

当日は大変な暑さではあったが、小野貴嗣神政連東京都本部長、野澤康次郎都神社庁副庁長、松岡由里子会長をはじめ、総勢七十二名のご参列を頂いた。本年も都内各支部より献納された生花が慰霊堂正面に供えられ、提箸時局対策委員長を齋主として祭員、伶人十名の奉仕により厳肅のうちに斎行された。

その後、靖國神社へ移動。夕刻にも関わらず多くの参拝者で境内は埋め尽くされていた。昇殿参拝の後、小方権宮司よりご挨拶を頂いた。
(村瀬 宣孝)



靖國神社の近況について語る小方権宮司



東京都慰霊堂前にて記念撮影



齋主の提箸時局対策委員長以下伶人と合わせて計十名にて奉仕

夏の野外懇親会

八月二十一日、夏の野外懇親会が秋川溪谷にて開催され、会員家族含めて三十一名が参加し、むらさき会からも六名が参加された。

現地へ到着後は、早速一杯始める組もいたが、ほとんどの参加者は川原へ降りて、川遊びに興じた。子どもたちだけでなく、大人も川へ潜ったり、水を掛け合ったりと童心にかえり大いに楽しんだ。

お昼にはパーベキュー場へ集まり、当会会長挨拶、むらさき会鴨志田会長挨拶があり、大久保相談役の乾杯で食事が始まった。

食後には、再び川原へ降り、スイカ割りや川遊びを楽しんだ。

秋川溪谷を後にしてからは、瀬音の湯へと移動し温泉に浸かって疲れを癒し、その後一同は帰路についた。

(鈴木 光典)



スイカ割りをする様子

雅楽研修会

九月二十七日、十月十六日の二日間にわたり、都神社庁に於いて小野雅楽会会長・小野貴嗣先生以下四名の講師のもと、雅楽研修会が開催された。

今回は、例年と比べて参加者の人数が少なかったが、特に二日目は台風が発生している中での開催となり、交通機関の乱れや、各社で台風対策の社務があった等の影響で、定刻に到着できない受講生がおり、一時間ほど開講を遅らせるといふ、ハプニングもあった。

しかしながら、講師の先生方や、受講生の皆様のご協力のおかげで、無事に二日間の研修を終えられた。雅楽には祭典でも非常に大切な役割がある。会員の皆様には、祭式や禊同様、積極的に研修に参加して頂きたい。

(高橋 秀史)



2日間で延べ35名参加

コラム

神職資格を得て後、関西の大事業で幾分か勉強をさせていた。祝詞や祭式といった、神職としての基本以外にも、神楽の笛と歌、雅楽、御神楽、倭舞、狂言など、身につけねばならないものが多々あった。

特に神楽は独特のものを伝承しており、祭典時や御祈禱時などで頻りに奏楽するため、相当な量の歌と笛を奏楽してきた。そして、神楽を歌っていたある時、ふと思いついたことがある。「その人の書と歌の技術は比例する」ということである。

つまり、書道の達者な人は神楽歌も達者。書道の不得手な人は神楽も不得手。書に癖のある人は神楽歌にも癖があり、字を大きく書く人は歌声も大きい、という具合である。

もちろん、これが絶対かというところはない。中には必ずしも理論が当てはまらないパターンが例外としてある。

しかし、考察をしてみると、書道というのは、紙の上にとどのように線を引いくかということ

であり、伸ばす、止める、払う、跳ねるなどを、いかにバランスよく空間を内に納めるかという技術である。

神楽歌というものは譜面に、声を伸ばす横線、声を落とす下がり線、声を止める印などが書かれており、譜本の線に従い、一文字一文の言葉をいかに上手くバランスよく繋いで、歌い上げるかというところにコツがある。

両者には、永字八法のように「引く」「止める」「払う」というようなところが基本として共通しており、それを手で書くか声に出して歌うかという違いがあるだけで、「いかにバランスよく」という感覚的なところは、同じなのではないかと考える。

従って、書と歌の技術は比例してくるということになるのだが、問題は例外の部分である。

ここの一応の説明がつけば、説としての体裁が整うのだが、研究はまだに進んでおらず、まだ当分は未完成理論のままとなりそうである。

もし、神楽歌を歌う機会のある方は、そっと周りを観察してみて、頂きたい。あなたのまわりの方は、いったいどうだろうか？

関東大震災九十年 慰霊堂秋の大法要

九月一日、東京都慰霊堂にて秋季慰霊大法要が営まれた。慰霊堂では三月十日の東京大空襲に合わせた春季大法要と、関東大震災に合わせた秋季大法要の年二回宮家の御台臨を仰ぎ仏式にて盛大に慰霊祭が行われている。

今年には震災後九十年ということ、法要後場所を変え、今までに慰霊堂へ貢献されてきた方々への表彰も行われた。

かつては神式にて慰霊祭が執り行われていたとも伝え聞いている。何時の日か再び我々神社界で、両日慰霊祭が斎行出来る日を目指し、都神青としては八月十五日の慰霊祭を続けていきたい。

(松岡 由里子)



東京都慰霊堂

靖國神社霊簿からの 氏名抹消等請求訴訟

十月二十三日、東京高等裁判所において、靖國神社霊簿からの氏名抹消等請求訴訟控訴審の判決言渡しが行われた。結果は、靖國神社及び国の勝訴。口頭弁論が二日間しか行われず、また、判決言渡しの際は「控訴を棄却する。」という短い主文のみが読み上げられる非常にあっけないものであった。

この訴訟は、外国人を含む戦没者の遺族らが靖國神社及び国を相手取り、霊簿からの氏名抹消及び損害賠償を求めて東京地方裁判所に提起していたもので、地裁による請求棄却の判決に対し遺族らが控訴していた。

控訴審の審理において、控訴人側には法律論を展開するというよりも裁判官の感情に訴えかけようとする姿勢が見られ、裁判所の決定に対しては傍聴席から声を荒げて野次を飛ばすなど不穏な雰囲気にも包まれることもあった。しかし、傍聴する身としては、裁判官がこの雰囲気には呑まれないようにと願いつつ静かに見守るしかない。傍聴後の報告会で伺った話では、裁

判官が雰囲気には左右されてしまうことが現実にはある、とのこと。その意味でも傍聴に訪れることにより訴えの支援をすることの重要性を認識した次第である。

本訴訟は東京で提起されたものだが、同種の訴訟は大阪及び沖縄でも提起されており、こちらの方では既に最高裁において遺族らの主張を退ける判決が確定している。

一連の訴訟において裁判所は、自衛官合祀取消訴訟の基本的立場を踏襲し、原告には保護すべき法的利益がないとして、その主張を退けている。法律論としては極めて当然の判断であり、今後もこの裁判所の立場は基本的には変わらないはずであるが、安心してもらえない。

最近では非嫡出子の相続分に関する民法の規定の合憲性について最高裁が判断を変更したように、この件について後に判例を変更しないとも限らない。今後同様の訴訟が提起された場合には、裁判所が判例を改悪しないように、或は相手方傍聴席の雰囲気にも呑まれた「リップサービス」のような傍論を作り出さないように見守る必要がある。

(宮崎 真一)

ニュース

神青協夏期セミナー

八月二十七日・二十八日の二日間には、本社本庁と皇居に於いて、神青協夏期セミナーが開催された。

全国から百二十六名の参加者が集い、当会からは松岡会長をはじめ十名が参加した。

近年増えつつある皇室軽視の議論や偏向報道を受け、本年は主題を「真の皇室のお姿を拝して」として、我々が氏子崇敬者に向けて皇室についてを正しく伝えるべく、皇室についての理解を深める内容で行われた。

一日目の第一講は、宮内庁式部官飯塚秀行先生による「天皇陛下の御日常」と題した講演があり、第二講には、皇室ジャーナリスト高清水有子先生の「天皇皇后両陛下のお人柄と皇室のいい話」と題した講演があった。

二日目には皇居を参観した。講義だけでなく、実際に皇居を参観することによって、その皇居の空気を肌で感じ、皇室の歴史を学ぶと共に、理解を深めることができた。

(大鳥居 良人)

浪江町本務神社復興支援

東日本大震災より一年半が過ぎ、原発避難区域内に鎮座する二百数十社は手付かずの状態にあったが、平成二十五年四月一日より立ち入り許可条件が緩和され、日中のみではあるが、ようやく私達の仲間の奉職する神社への復興支援を始める事が出来た。

当日は、一泊二日の行程で神青協より六十名以上の仲間が参加した。作業に先立ち浪江町役場にて福島県神社庁丹治庁長に挨拶頂き、そして作業させて頂く三社の宮司さんに神社の現状を説明頂き、福



被災した境内の様子



支援活動をする会員たち

島神青の皆様の先導の中、三社参拝・視察を行い、各お社へ作業に入った。

東京地区としては十名が参加した。都神青の復興支援の際に大きな力を頂いた、福島神青田村副会長の奉職する初撥神社へ移動し作業に入った。

作業は社殿周辺の石碑の移動から瓦礫撤去、境内整備や絵馬掛け補修、植木剪定や社務所内改修整理までに至った。

二日間の行程ではまだまだ難しいが、一時帰宅の方々が落ち着いてお参り出来る環境を整え、被災者の心に寄り添って、早期復興現実の為に、継続事業として展開していきたい。

(北川 貴史)

聖寿奉祝の碑周年奉告祭

十月十日、神青協創立六十五周年奉告祭が日本最南端の島、波照間島の高那台に立つ聖寿奉祝の碑の前で執り行われた。この碑は昭和四十五年の本土復帰を記念して建てられたもので、神青協の各周年の度に慰霊祭等が行われている。

奉告祭の直前には台風が通り過ぎ、さらに新たな台風が発生している合間を縫っての日程となり、当日の早朝は波照間島は雨模様であったが、祭典に参加する会員が



聖寿奉祝の碑前にて

石垣島から波照間島に渡るころには雨は上がった。港に到着後、移動するころにはすっかり晴れあがり、石碑の周りの清掃や、祭典の諸準備の後、奉告祭を執り行った。祭典は当会の監事でもある矢野神青協副会長が斎主を務められ、沖縄県神社庁渡慶次庁長（神青協顧問）のご参列を頂き、南坊城神青協会長を始め五十七名の会員の参列の下執行された。

祭典を終えて昼食の後には、島内の視察を行い、学児慰霊碑の参拝をし、神青協創立六十周年記念に植樹が行われた場所などをまわり、波照間島の歴史や沖縄の文化等を学ぶことができた。

各時代の先輩方のご尽力により、昭和五十二年に波照間の碑が建立された後に国旗掲揚塔が建てられ、昭和六十年に聖寿奉祝の碑として立て替えられ、現在に至っている。今回の創立六十五周年の記念事業である奉告祭を通し、東京地区の一会員としてはなかなか感じる機会が少ない、今までの神青協六十五年の歴史や先輩方の思いを今後にも伝えていく事を大切であると感じた。

(鈴木 淑人)

不易流行

時局対策委員会

神宮式年遷宮「遷御の儀」、出雲大社「平成の大遷宮」が行われた平成二十五年であった。まさに日本の国づくりを担われた神々が遷宮により益々神威を強められ、人々の心が明るくなり、日本の再生が期待され、我々が一層の教化活動を努力する時である。

経済再生と共に教育再生に重点を置く安倍政権では、首相の諮問機関「教育再生実行会議」を発足させ、「いじめ対策」「教育委員会制度改革」等の議論がされるが、中でも強い日本再生の礎として、「道德の教科化」が焦点になる。現在小・中学校では道德の時間が年間三十五単位時間と決められているが、道德が教えられることは少なく、遅れた科目の補習やその他の活動に使われているのが実態である。これは、先生たちが「道德教育は反動である」などとイデオロギー的に反対しているため

でもなく、「価値を押し付けるべきでない」と教育論点に抵抗しているわけでもなく、単に「教え方がわからない」ことが一番の要因であり、加えて先生たちは雑用に追われて、子供と向き合う時間が少ないのが実情である。道德が教科でないので、教科書がなく、教育法も開発されていない。先生自身も教えられていないからどう教えていいか戸惑ってしまうのであろう。

戦後の日本は、道德について日本弱体化政策の中、空虚なイデオロギー論争を続けている間に、戦前の修身科の蓄積を喪失してしまっただけである。その結果が今の社会である。人々の道德心は、宗教および宗教的感性によって培われ支えられてきたことを再認識する必要がある。近年の子供たちの二割が、「死んでも生き返る」と思っているなど、生死観についてもきちんと教えないと生命の尊さを粗末に扱う危険がある。まさに道德教育の根底には、我々神社神道をはじめ、宗教界が担う重要な使命である。

懇親ボウリング大会

十月二十三日、シブヤボウリング場に於いて、懇親ボウリング大会が開催された。会員家族を含めて三十一名の参加があった。

松岡会長の始球式で大会が始まり、得手な方も不得手な方も、それぞれボウリングを楽しんだ。

大会終了後は、近くのお店へ移り懇親会となった。まず、松岡会長の挨拶があり、続いて大久保相談役の乾杯で開宴した。

開宴後早々に結果発表が行われ、優勝の日高事業部長以下、各自成績に応じた景品が贈られた。

途中、藏重相談役がご自身の景品を提供され、勝ち抜きジャンケン大会が始まり、会場は大いに盛り上がった。盛會裏に懇親会は閉じられ、参加者一同さらに強い結束で結ばれた。
(三笠 智春)



シブヤボウリング場にて

忘年旅行

十一月十八日・十九日、鬼怒川で忘年旅行が開催され、二十八名が参加した。地元の栃木県青年神職むすび会よりは瀧口会長と福田事務局長が駆けつけて下さった。

当日は、各々社務を終えた後に宿泊先の鬼怒川プラザホテルへと集合した。丁度、紅葉の季節ということもあり、道中に見える木々や山々は赤く色づいていた。

参加者が揃うと早速に宴会へと移り、会長の挨拶、奥野相談役の挨拶、来賓の瀧口会長挨拶がそれぞれあり、その後、田中相談役の発声で乾杯し開宴した。

美味しい料理にお酒もすすみ、先輩方との会話も大いに盛り上がり、あっという間に時は過ぎ、盛會裏に、水野相談役の手締めでお開きとなった。
(日高 將光)



鬼怒川プラザホテルにて

なつやすみ 子供神社体験学習

八月五日・六日、第十五回なつやすみ子供神社体験学習が、一泊二日で明治神宮の御神域にて開催された。

今回は「鎮守の森で自然を学ぼう」とテーマを設け、子供たちに自然を大切にすることを涵養すべく様々なプログラムを企画し行った。また、スタッフにも実りのある体験学習にという思いで、「真剣に子供と向き合い、心ある挨拶をしよ」とスタッフにもテーマを設けさせて頂いた。



1日目正式参拝後 社殿前にて集合写真



2日目 クイズラリー

明治神宮会館に集合した子供たちは直ぐに白衣白袴に着替え開講式に臨んだ。不安と緊張の入り混じる面持であったが、自己紹介を終えると少し安心した感じが見受けられた。

一日目の作法の勉強から松山都神社庁長による神主さんのお話までの間、子供たちは白衣白袴姿で正座を交えながら過ごした。普段正座を減多にしない現代の子供たちには辛い経験だったと思うが、一生懸命正座をしていた姿が印象に残った。

その後、改服し神話劇「ヤマタノオロチ」を鑑賞した。毎年趣向

を凝らし質の高い作品になっているが、今回も子供たちから歓声が上がるとの素晴らしい劇であった。子供たちだけではなく、周りのスタッフたちも子供たち同様に関心込まれていた。その後、劇でも使用した勾玉を作成した。夕食後夜間参拝へ出発した。暗闇を歩く内、子供たちも何かを感じ取り、私語をする者は一人もなく、東京にいるとは思えない程静かな中、夜間参拝を行った。

二日目は国旗掲揚・国歌斉唱の後、禊を行った。その後明治神宮の広い御神域で自然・作法をテーマに組み込んだクイズラリーを行った。ゴール地点の芝生広場で昼食を摂り、大縄跳び大会を開催した。

子供だけではなく、スタッフも一緒に参加し、子供たちと共に楽しむことができた。

その後雅楽鑑賞・雅楽体験を行い、閉講奉告祭へと移った。

閉講式では開講式とは全く違う子供たちの姿勢や態度が見受けられた。参加した子供たち同士連絡先を交換したり、中には仲良くなった友達同士、修了書を交換していた子供もいた。(田中 芳明)



60・61	62・63	元・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12	13・14	15・16	17・18	19・20	21・22	23・24	25・26		
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29		
小野貴嗣	北川憲史	鈴木昭樹	阿部明德	篠直嗣	松本仁	齋藤明比古	富岡茂永	本橋宣彦	佐佐木統一	水野明彦	田村康雄	北川正訓	矢野幸士	松岡由里子		
北川憲史	長谷川康夫	能圓坊明彦	大石定道	松本仁	齋藤博明	堀江久教	本橋宣彦	佐佐木統一	奥野雅司	田村康雄	半田裕明 時局対策担当	八木健一郎 社会奉仕担当	北川貴史	北川貴史		
能圓坊明彦	鈴木昭樹	山口直英	小泉勝俊	齋藤明比古	齋藤明比古	富岡茂永	内海寿之	八木光重	水野明彦	北川正訓	北川正訓	矢野幸士	松岡由里子	大塚圭一郎		
田中芳明																
香取邦彦	中田憲文	村瀬章一	山口直英	齋藤博明	今井達	本橋宣彦	小俣章	森田一	八木光重	森田義巳	藏重命弘	栗原健人	押見昌純	押見昌純		
小俣宗昭	小野貴嗣	小野貴嗣	鈴木昭樹	阿部明德	篠直嗣	松本仁	齋藤明比古	内海寿之	森田一	佐佐木統一	荒堀文孝	田村康雄	北川正訓	矢野幸士		
伊藤孝夫	能圓坊明彦	北川憲史	能圓坊明彦	大石定道	小泉勝俊	齋藤博明	堀江久教	小俣章	植田浩敏	奥野雅司	佐々木満	藏重命弘	八木健一郎	森田光教		
大野二良	鈴木有司	長谷川康夫	村瀬章一	山口直英	小俣文弘	今井達	葦津元成	鶴岡隆志	大久保直倫	八木光重	清水雅裕	守谷徳之	栗原健人	青木大明		
				時局対策	時局対策	時局対策	時局対策	時局対策 社会奉仕	時局対策	時局対策				特別	時局対策	
				委員長	今井達	本橋宣彦	葦津元成	大久保直倫	奥野雅司	田中寛之	半田裕明				森田光教	提箸照之
				副委員長				大野素道	田中寛之	森田光教	渡辺生智郎				青木大明	宮崎真一
				幹事				長谷健次郎	板野智好	香山伸一	田中正浩					
				奉仕企画				ボランティア 研究	社会奉仕			社会奉仕	社会奉仕			社会奉仕
				委員長	唐松孝文				森田一	森田一	森田義巳	矢島八寿徳			松山幾一	
				副委員長						山本伸	高橋秀史				倉光秀尚	
				幹事						齋藤元孝	倉光秀尚					
長谷川康夫	山口直英	大石定道	篠直嗣	本橋宣彦	堀江久教	内海寿之	八木光重	水野明彦	北川正訓	佐々木満	矢野幸士	北川貴史	田中芳明	森下雅仁		
												永島康彦	森下雅仁			
阿部明德	篠直嗣	齋藤博明	内海寿之	佐佐木統一	小西啓文	田村康雄	植田浩敏	矢島八寿徳	八木健一郎	永島康彦	田中芳明	松岡由里子	清水雄介	山口瑛子		
小俣章																
細野政和	森山晴男	平岡好和	森山晴男	小俣文弘	唐松孝文	鶴岡隆志	総務 田村康雄	森田義巳	半田裕明	田中芳明	永島康彦	伊藤祐介 小泉泰司	濱中伸洋	鈴木淑人		
大石定道	真木千明	瀬川昌之	嶺頼誠	渡辺寛	石倉義康	渡邊陽一郎	教養 栗原健人	矢野幸士	栗原健人	栗原健人	高橋秀史	清水雄介	高橋秀史	松尾聖		
	唐松孝文	齋藤明比古	本橋宣彦	森田一	滝雅人	水野明彦	教化 勝田博之	北川正訓	永島康彦	田中寛之	青木大明	提箸照之	関龍太郎	早川真由子		
			石倉義康	田中寛之	佐佐木統一	河野通具	渉外 北川正訓	清水雅裕	清水雅裕	齋藤成彰	倉光秀尚	倉光秀尚	平岡好仁	平岡好仁		
				岩崎知樹	奥野雅司	松岡里枝	広報 岩崎知樹	半田裕明	田中正浩	多田光武	守谷徳之	小泉泰司 濱中伸洋	山口瑛子	濱中伸洋		
					八木光重	藏重命弘	事業 藏重命弘	佐々木満	矢野幸士	森田光教	松岡由里子	押見昌純	鈴木淑人	中島貴子		
														特別 飯塚礼寿		
森山晴男	村瀬章一	阿部明德	松本仁	清水祥彦	森田一	大久保直倫	鶴岡隆志	齋藤成彰	佐々木満	八木健一郎	栗原健人	齋藤元孝 三笠貴春	大塚圭一郎	高橋秀史		
			石倉義康	小俣章	水谷敦憲	水谷敦憲	栗原健人	八木健一郎	八木健一郎	田中芳明	齋藤元孝	齋藤元孝	高橋秀史	大野裕丈		
				奥野雅司	大久保直倫	田中寛之	戸部廣之	岩崎知樹	高橋秀史	早山直材	青木大和	三笠貴春 大塚圭一郎	齋藤浩孝	服部佑子		
鈴木有司	細野政和	今井達	神保恵一	内海寿之	小俣章	奥野雅司	水野明彦	大久保直倫	矢島八寿徳	北川貴史	北川貴史	青木大明	提箸照之	佐佐木清有		
		本橋宣彦	中島敬史	宮崎久嗣	丸山聡一	北川正訓	朝日修	永島康彦	青木大明	青木大明	提箸照之	飯塚礼寿	鈴木光典	山田久仁		
				丸山聡一	田中寛之	中田裕之	永島康彦	青木大明	北川貴史	提箸照之	橋元淳	佐佐木清有	山田久仁	高山陽充		
鈴木昭樹	大島居武司	篠直嗣	今井達	富岡茂永	内海寿之	齋藤成彰	佐佐木統一	多田光武	荒堀文孝	荒堀文孝	押見昌純	田中芳明	佐佐木清有	大島居良人		
				齋藤明比古	神谷浩昭	齋藤成彰	佐佐木統一	多田光武	荒堀文孝	石井朗英	守谷慶信	守谷慶信	石井朗英	松山幾一		
					八木光重	内野成浩	多田光武	荒堀文孝	石井朗英	守谷慶信	石井朗英	森下雅仁	高橋知明	柳田守章		
													大島居良人	瀬川真澄		
中田憲文	阿部明德	森山晴男	小俣文弘	小俣章	清水祥彦	森田一	奥野雅司	小平美香	田村康雄	矢野幸士	八木健一郎	森下雅仁	三笠貴春	三笠貴春		
		松本仁	唐松孝文	大久保直倫	品川宗久	八木光重	野澤靖明	田村康雄	山内学	恵川義浩	椎名勇夫	早山直材	細野喜久	清水雄介		
					品川宗久	植田浩敏	白石元	小平美香	栗原健人	平岩小枝	長谷川康明	清水雄介	石垣宣子	恵川剛		
														本橋典子		
山口直英	大石定道	小泉勝俊	齋藤博明	石倉義康	渡邊陽一郎	小西啓文	齋藤成彰	植田浩敏	藏重命弘	清水雅裕	森田光教	森田光教	小泉泰司	日高將光		
		唐松孝文	富岡茂永	渡邊陽一郎	岩崎知樹	植田浩敏	松岡里枝	藏重命弘	日高將光	日高將光	日高將光	長谷川康明	三笠智春	鈴木光典		
				滝雅人	鈴木啓磨	岩崎知樹	佐々木満	松岡里枝	河野通具	押見昌純	長谷川康明	三笠智春	柳田守章	三笠智春		

年度	31・32	33・34	35・36	37・38	39・40	41・42	43・44	45・46	47・48	49・50	51・52・53	54・55	56・57	58・59
期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
会長	細野喜八	小野亮哉	内野 淑	齋藤英雄	小泉和夫	今井 香	齋藤吉則	八木光昭	北川正保	大鳥居信史	中田昌之	川合玄紘	小泉朋昭	押見守康
副会長	長谷川秀夫	長谷川秀夫	小泉和夫	高島俊彦	山田将夫	齋藤吉則	本橋久徳	宮西惟道	松本美昭	清水 司	川合玄紘	小泉朋昭	内田英雄	小俣宗昭
	小野亮哉	阿部徳男	村瀬任一	鈴木正徳	梶 恒夫	梶 恒夫	八木光昭	森田義則	大鳥居信史	蔵重命史	山内 温	八木敏夫	押見守康	伊藤孝夫
議長									山本雅道	瀧 實	日暮英司	植栗照之	八木正明	竹内一郎
監事	上野喜信	上野喜信	小野亮哉	内野 淑	齋藤英雄	小泉和夫	今井 香	齋藤吉則	八木光昭	北川正保	大鳥居信史	中田昌之	川合玄紘	小泉朋昭
	齋藤直成	細野喜八	阿部徳男	伊藤博康	鈴木正徳	山田将夫	田村顕雄	本橋久徳	森田義則	松本美昭	清水 司	山内 温	八木敏夫	内田英雄
			長谷川秀夫	瀬川昌男	高島俊彦	亀井瑞雄	鳥海利夫	田中康彦	高橋範秀	春田知男	蔵重命史	日暮英司	大村 忠	山崎 寛

東京都神道青年協議会							
年度	24	25	26	27	28	29	30
期	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
委員長	上野喜信	上野喜信	齋藤直成	酒井利行	香取経雄	齋藤直成	齋藤直成
副委員長	細野喜八	細野喜八	香取経雄	齋藤善三	新倉重行	新倉重行	新倉重行
			須崎 茂	井出正典		今永利男	

《特集記事》
～広報部長の資料室～

【都神青歴代役員一覧】

[参考]
やくわえ各号
やくわえ周年記念号各号
東京都神道青年会50年史

総務部	部長	松本美昭	蔵重命史	中田昌之	小泉朋昭	大村 忠	渡邊和壽	小野貴嗣
	次長							
	会計	中田昌之	山内 温	渡邊和壽	守谷幸夫	香取邦彦	北川憲史	河野元俊
庶務	会計補佐							
		大野達夫	小泉朋昭	倉光賢一	山崎 寛	山口直和	伊藤孝夫	山口直英
		内田英雄	濱中厚生	香取邦彦	伊藤孝夫	大野二良	鈴木昭樹	
教養部	部長	鏡 武男	中田昌之	齋藤直孝	植栗照之	早山 彰	小俣宗昭	村岡賢治
	副部長							
	幹事							
教化部	部長	春田知男	川合玄紘	日暮英司	渡邊和壽	北川憲史	中田憲文	長谷川康夫
	副部長							
	幹事	調査渉外						
渉外部	部長	瀧 實	瀧 實	小泉朋昭	濱中厚生	守谷幸夫	香取邦彦	大野二良
	副部長							
	幹事							
広報部	部長	山本雅道	神尾恭三	山内 温	倉光賢一	千村義和	山崎 寛	山口直和
	副部長							
	幹事							
事業部	部長	蔵重命史	清水 司	小山 陽	大村 忠	押見守康	小野貴嗣	能圓坊明彦
	副部長							
	幹事							

クラブ・同好会活動報告

演劇同好会

八月に明治神宮で行われた、なつやすみ子供神社体験学習にて、神話劇を公演。今年で五年目となる今公演では、八岐大蛇神話に現代劇を加味した完全新作「生きとし生ける者達へー八岐大蛇編」に挑戦。「自然を学ぶ」という今体験学習のテーマを盛り込み、神話の世界に入り込んだ子供達が、自然と命、家族の絆に向き合う様子を表現すべく舞台創りに取り組んだ。オリジナル脚本ということ、大蛇神話には登場しないはずのア

なつやすみ子供神社体験学習



出演者達の集合写真

神社関係者大会



主人公の日下部姉妹

マテラスも登場、昨年前作を見た子供達にも楽しめる内容とした。大掛かりな舞台装置と、巨大なおロチの登場に、子供達だけでなくスタッフ達も息を呑み、大いに喜んでくれたように思う。我々の目標とする「楽しみ、学べ、教化につながる劇」の上演には、この体験学習が最もふさわしい場である



オロチの練習風景



須佐之男命、櫛名田比売とオロチ

う。毎年時間を設けて頂いていることに感謝申し上げます。今後とも「神主だからこそできるお芝居」に楽しみながら挑戦していきたい。

更に十月には、都神社庁神社関係者大会での上演の機会を頂き、明治神宮会館ホールで再演。台本を練り直し、四十分間の上演時間を二十五分に短縮。出演者変更等



子供達の作成した勾玉でオロチを退治



公演終了後の挨拶

の必要もあったが、今回が二回目となる大舞台での公演に同好会関係者全員が奮起、気持ち新たに全力で取り組んだ。照明・音響・ビデオ撮影に専門家を投入し、舞台装置も更に充実させ、舞台の大きさに負けぬよう稽古と準備を行った。会長以下、出演者の気迫のこもった演技に、終演後には客席から大きな拍手を頂き、ほっと胸を撫で下ろした。今公演が都神青活動への評価と理解に繋がってくれば幸いである。

最後に、出演者はじめ、忙しい中作品を作り上げてきた全ての関係者、そして種々指導を頂いた松田光輝、松田光宏両氏に感謝したい。

(関龍太郎)

野 球 部

九月六日、明治神宮外苑軟式野球場に於いて、第十七回一都七県神職野球大会が開催された。

当日は天候に恵まれ、絶好のグラウンドコンディションの中、試合が行われた。

一回戦は、神奈川チームYと対戦した。試合は互いに決定打が出ず接戦となり、そのまま引き分けとなった。その後、勝敗を決定する方法として、出場選手同士によるじゃんけんを行うことになり、このじゃんけんも試合同様、最後の一人までもつれる展開になったが辛くも勝利し、なんとか一回戦を突破した。

次の準決勝では、埼玉チームと対戦した。序盤から相手好投手に苦戦を強いられたが、初戦突破の勢いにのり、小刻みに得点を加え勝利した。

そして、ついに迎えた決勝戦。

神奈川チームKとの対戦となった。相手チームに先制されたが、中盤同点に追いつき、引き分けに持ち込んだ。またも勝敗はじゃんけんで決する事となったが、初戦での経験が生き、神奈川チームKをじゃ

んけんで破り、第二回大会以来十五年ぶりの優勝を手にできた。

初戦で毎年優勝を争っている神奈川チームにじゃんけんとはいえず勝てたことが準決勝、決勝への自信につながり、良い流れをもたらした、今回の優勝に繋がった。

次の大会への準備として、野球の練習はもちろん、じゃんけんの練習も必要と感じた大会であった。

今回、十五年ぶりに優勝したが、最近では部員が減少し練習できない状況が続いている。この優勝を機に野球部への関心を高め、部員増加へと繋げたい。

(小白川 宮貴)

雅 楽 ク ラ ブ

雅楽クラブでは、恒例となっている都神青の事業「なつやすみ子供神社体験学習」「東京都慰霊堂都内戦災震災殉難者慰霊祭」での演奏、それに加えて品川区立戸越小学校での雅楽演奏・楽器体験、江東区天祖神社奉納雅楽演奏などを先輩からの声がけを頂いて行っている。

七月七日に靖国神社にて開催された「七夕まつり親子の集い」では十三名が参加。

十月二十三日には杉並区立杉並第四小学校体育館で、雅楽の演奏と楽器体験を行った。児童約百二十名に対し、当クラブより二十名で対応に追われた。

その一週間後、ゲートシティ大崎にある「ザ・ファルチガーデンテラス」にて十五名で演奏、更に十日後、真砂中央図書館でのコンサートを九名で行った。

これらの為に毎月の稽古で研鑽を重ねているが、今期は演奏の機会が例年よりも多く大忙しである。発表の場があると、練習にも目的意識が生まれ、良い効果を得ることが出来る。今後もご依頼頂いた演奏の機会を大切にし、自身の向上に努めたい。

(森下 雅仁)

フットサル同好会

十二月二日、国立代々木競技場フットサルコートに於いて、神青協一都七県協議会親睦フットサル合同練習会が開催された。

各単位会同士の親睦を深める目的で行われているこの事業に都神青より十四名が参加、総勢三十四名が参加した。

当日は天候にも恵まれ、都神青の会員同士だけでなく他の単位の会員とも懇親を深めることができた。

(平岡 好仁)

お 知 ら せ

本年、当会はめでたく、創立六十五周年を迎えます。

秋頃に開催予定の記念大会をはじめ、国内慰霊祭ややくわえ記念号発行などの記念事業を企画してまいります。

詳細は平成二十六年度総会の決議を経て後に発表されますので、ご関係各位におかれましては、ご協賛並びに各記念事業へのご参加など、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



品川区戸越小学校にて

会 員 情 報

【新入会員紹介】

《千代田区》

三橋稻荷神社 榎宜 山崎充彦
 靖國神社 宮掌 茂木泰彦
 靖國神社 宮掌 山本直弥

《台東区》

小野照崎神社 榎欄宜 小野亮貴

《渋谷区》

金王八幡宮 榎欄宜

ウイルチコ
 フローリアン

金王八幡宮 榎欄宜 石川明寿

明治神宮 出仕 北方靖章

明治神宮 出仕 吉田充慶

明治神宮 出仕 長田祖治

明治神宮 出仕 遠藤 将

《大田区》

馬込八幡神社 榎宜 伊藤洋文

《世田谷区》

八幡神社 榎欄宜 佐々木彩乃

松陰神社 榎欄宜 大童雄介

《足立区》

千住神社 榎欄宜 石山寿雄

梅田神明宮 榎欄宜 野村明生

《豊島区》

天祖神社 榎欄宜 高島俊亮

《北多摩》

日枝神社 榎欄宜 堀口晃男

大國魂神社 榎欄宜 猿渡 惇

都神青の主な活動と予定

【平成二五年度】

八月五日・六日

なつやすみ子供神社

体験学習

明治神宮

十五日 やくわえ八九号発行

都内戦災震災殉難者

慰霊祭並びに靖國神

社参拝 靖國神社・

東京都慰霊堂

三十日 連絡会② 都神社庁

九月 一日 東京都慰霊堂

秋季大法要参列

東京都慰霊堂

二六日 役員会⑤ 都神社庁

二七日 雅楽研修会一日目

都神社庁

十月十六日 雅楽研修会二日目

都神社庁

十七日 役員会⑥ 都神社庁

二三日 懇親ボウリング大会

シブヤボウリング場

十一月十一日 役員会⑦連絡会③

都神社庁

十八・十九日

忘年旅行

十二月六日 鬼怒川プラザホテル

教養講座 都神社庁

【平成二六年】

一月十六日 役員会⑧

二十日 大寒褌錬成会

二十九日 新年会 明治神宮

二月十一日 「建国記念日」奉祝

パレード 表参道

三月 三日 祭祀舞研修会

都神社庁

《関係団体の活動と予定》

【平成二五年】

八月二七日・二八日 神青協夏期セミナー

神社本庁

九月四・五日 神青協

「東日本大震災」

福島県双葉郡浪江町

本務神社復興支援

福島県双葉郡浪江町

神青協 聖寿奉祝の

碑における神青協創

立六五周年奉告祭

沖縄県・波照間島

神青協 全国戦歿學

徒追悼祭兵庫県淡路

島・戦没学徒記念

「若人の広場」

二四日 神青協 岩手県被災

氏子精神復興活動・

宮城県南三陸町被災

神社支援活動

三月六・七日 神青協中央研修会

岩手県・宮城県

三月 一七協 研修旅行

クラブ・部活動紹介

野球部

募集！野球部員

神青野球部では、東京都神道人野球大会など諸大会に参加しております。

ここ数年部員が減少しつつあり練習・試合がともに出来ずに困っています。一緒に汗を流し、泥まみれになって頂ける会員の方、お気軽にお問い合わせください。
(経験は問いません)

雅楽クラブ

雅楽を楽しみたい方 大歓迎

私達、都神青雅楽クラブは、雅楽を始めたい、雅楽好き有志が集まり、月に一度ではありますが稽古を行い、祭典楽の習得に励んでおります。

青年会活動や教化の一端として、なつやすみ子供神社体験学習や都内の小中学校での雅楽鑑賞会等を行っております。



〈連絡先〉高橋秀史 (玉川神社禰宜) 03-3701-1617 平成13年発足



〈連絡先〉日高将光 (胡録神社宮司) 03-3806-1673 昭和31年発足



釣りクラブ

釣りに着いたら上下無し、釣果はもはや下剋上

釣りクラブは、年に数回の漁行を関東近郊の漁場をメインに活動しております。忘年会を開いたり、温泉に行ったりと、会員みんなで和気あいあいと活動しております。



初心者の方も、安心してご参加下さい。一緒に東京湾の魚を釣り切っちゃいましょう。初心者・冷やかしの飲み食いのみ参加の方大歓迎！

フットサル同好会

初心者大歓迎です!!

運動不足解消にいかがですか？

二ヶ月に一回のペースで練習会を行っています。初心者・女性・子供と幅広く参加可能です。お気軽にご参加下さい。



〈連絡先〉田中芳明 (大橋氷川神社禰宜) 03-3466-2507 平成17年発足



〈連絡先〉中島貴子 (熊野神社禰宜) singlewing_skysteed@yahoo.co.jp 平成8年発足

演劇同好会

参加者熱烈募集中!

神話・昔話を中心に、若手神職自らによる手づくり劇団です。月1〜2回の練習を目安に活動。老若男女が楽しめ、神社、そして日本をより知ってもらえるように頑張ります!



〈連絡先〉関龍太郎 (八幡神社禰宜) tss.geki@gmail.com 平成23年発足

表紙題字 第三代東京都神社庁長 大鳥居吾朗先生

平成二十六年二月一日
東京都神道青年会
東京都港区元赤坂二一―三
東京都神社庁内
電話 三四〇四―六五二五代